



# 言語についての方針

## LANGUAGE POLICY

サニーサイドインターナショナルスクール

2015年8月



## 教育理念

時代が瞬く間に変化する現在、子どもたちが**20**年後の社会を堂々と生き、世界中の人々の平和に貢献できる人材の育成を目指します。

礼儀たたく、他人を思いやる優しい子どもを育成します。

日本人としての育ちを大切にし、その文化や伝統を幼児期から経験する中で、真の国際人の育成に努めます。

健康的な身体、知的発達、穏やかな情緒、それらをバランスよく兼ね備えた幼児の育成に努めます。

## School Philosophy

For the children of Sunnyside International Kindergarten we envision a future of confidence. By shaping our young, inquiring minds, we strive to plant the seeds of international-mindedness.

It is our hope that our children lead their future lives driven by compassion, equality and a respectful care for all others. Through the lens of a strong Japanese cultural tradition, our children will enter into the global society peacefully, and ready to make an active contribution.

We believe that it is through the identification of our own cultures and traditions that we can seek to better understand and learn about the importance of others.

In order to offer a balanced and meaningful education for our children, we strongly value the equal importance of social, emotional, physical and intellectual development.

1. 言語についての方針
2. 言語習得のねらい
  - 2.1. 本校の言語習得についての考え方
  - 2.2. 共通理解
  - 2.3. 母語について
3. 本校及び **PYP** における言語学習領域
  - 3.1. PYP における言語教育
  - 3.2. アクションプランに示される言語教育
4. 参考文献

# 1. 言語についての方針

---

**“The limits of my language are the limits of my world”**  
私の知る言語の限界が、私の知る世界の限界である  
**Ludwig Wittgenstein.**

At Sunnyside International, we believe that language plays a fundamental role in the holistic development of our children. Language is the vehicle by which our children nurture and hone their individual beliefs, attitudes, curiosities and life perspectives.

サニーサイドインターナショナルスクールでは、子どもの総合的な発達において言語はその基礎となるものと考えています。言語は子どもたちが自らの理念、態度、興味関心、人生の目標などを自分の中に育て、より明確にしていくために必要なものです。

It is our mission to facilitate an inquiry-based approach to language learning where all children are engaged in meaningful, challenging, relevant and developmentally appropriate learning experiences. Through the exploration and discovery of language we empower our children into the process of constructing meaning, by building on established skills and understandings.

私たちの使命は、子どもたちの意義深く、時に難しく、自らの生活に関連性があり、それぞれの発達段階に適した学びが、子ども自らの探求心に基づいて進められるよう、その手助けをすることです。言語を取得することは、学びの中で得たスキルや理解を通し、子どもがその意味を構築するプロセスに欠かせません。

We believe in the importance of all languages because language is the cornerstone to multi-cultural understanding, and the preservation of social identity. We develop children who are internationally minded, and in possession of a deeper understanding of intercultural diversity. We value the right to access different languages, cultures and perspectives, whilst at all times placing a central importance on the cognitive development of the mother tongue.

私たちは世界のどの言語も大切にされるべきと考えています。何故なら、言語はそれぞれの文化の象徴であり、異文化を理解する上で基礎となるものだからです。私たちは国際理解のある生徒、つまり異文化間の違いを良く理解できる生徒を育てたいと願っています。生徒が違う言語を知ることによって他の文化や、そのアイデンティティーを知ることが歓迎する一方、母語を生徒の育ちの中心的なものとして大切にしたいと考えています。

## 2. 言語習得のねらい

---

### 2.1 本校の言語習得についての考え方

私たちは、生徒の全人的な教育において、効果的な言語教育は欠かせないものであると考えています。特に3歳～6歳という年齢において、子ども達が豊かな言語環境に身を置くことは、非常に重要であり、その言語環境がその後の発達の基礎になります。また、言語習得には個々の発達の違いを理解し、それぞれの生徒、それぞれの年齢や発達段階に適切な内容を検討し、そこには生徒の意欲的な学びがなくてはならず、それに全教職員で取り組みます。

本校におけるの第一言語は日本語です。私たちは人の成長において母語は大変重要であると考えています。生徒たちの学びにおいて重要なことは、カリキュラムフレームワークの内容をしっかりと理解することであり、その為には、母語をベースとした学習環境が最適であると考えます。

一方、国際理解(International mindedness)を養うことを理念としている本校においては、外国人教師との日々のコミュニケーションも重要であると考えており、学校生活を通してそれらを実現するための環境作りに努めます。全ての生徒は毎週2回、各60分の英語活動に参加します。

専科の英語教師の役割は、「英語を教える」ことではなく、生徒自身が自らの生活と英語が繋がりを持っていることに気づく為の環境作りです。英語教師を通して、異文化を知り、それが時には自分の文化と似ていて、また時に違うものであることを知ることは国際理解の基礎を育む上で大きな意義をもつものと考えています。

### 2.2 共通理解

本校の全ての生徒は・・・

- ◇ 自由遊びや人との関わりの場面において自分にとってもっとも使いやすい言語を使い、自らの気持ちを伝えます。
- ◇ 音楽や歌、ストーリー、ガイダンスや様々な情報など、学校生活の中で、「聴く」姿勢を大切にします。
- ◇ 質問をしたり、自分の毎日の生活について話したり、友人とのディスカッションに参加したり、自分が好きな物語の場面について説明するなど、「話す」ことを大切にします。
- ◇ 様々な言語を使うことを楽しみます。
- ◇ 自分の感情、思いなどを自信をもって言葉で表現出来るようになります。
- ◇ 文字を書くことでコミュニケーションをとる経験をします。
- ◇ 本に親しみ、それを通して色々な情報を見つけることが出来ることに気付きます。
- ◇ 日本語や英語で使われる発音、文字、記号を使う経験をします。
- ◇ 本に出てくる言葉やストーリーを理解します。
- ◇ 自らの思い、感情などを人前で堂々と発表することが出来るようになります。

## 2.3 母語について

本校の生徒の大半は、日本語ないし英語を母語としており、それ以外の言語を母語とする生徒は少数に限られています。

そこで、今後、入学を検討する保護者には事前面接の場で以下の2つについて尋ねます。

- ◇ 母語を学ばせるにあたって家庭におけるどのようなサポートを計画していますか？
- ◇ 母語が日本語と英語以外である場合、母語をどのように育てるか考えを持っていますか？

この面接の中で、教師は、保護者に対し、どのように母語を大切にしていくかについて、アドバイスをします。

図書室には英語、日本語以外の本も用意します。場合によっては、保護者に生徒の母語の書籍を寄付することをお願いすることがあります。

本校においては、日本語、英語の母語育成を助けるための課外クラスを用意しています。

どの段階においても生徒の言語育成をサポートする職員を配置します。

### 3.本校及び PYP における言語学習領域

生徒が意味を構築する過程において言語は最も重要な役目を果たします。概念理解やクリティカルシンキングをするために、言語の理解は欠かせません。PYP において、言語の発達は生徒のそれまでの経験や、興味関心に基づいてあるものと考えており、あらかじめ決められたものを一方的に教えようとするものではありません。

(Making the PYP happen: A curriculum framework for primary education より)

#### 3.1 PYP における言語教育

PYP においては以下の3つの分野で言語育成を捉えています。

- 話す言語 (**Oral language**) - 聞くこと、話すこと (listening and speaking)
- 視覚的に理解する言語 (**Visual language**) - 見ること、示すこと (viewing and presenting)
- 書く言語 (**Written language**) - 読むこと、書くこと (reading and writing)

この3つの分野のどれもが、受動的（人の言葉を受けて意味を理解する）、また自発的表現（自分で意味を構築し他に伝える）の2つの観点を持っています。本校においては、この2つの観点のどちらも大切であるということを生徒に示します。

Strand	Receptive—receiving and constructing meaning	Expressive—creating and sharing meaning
Oral language	Listening ←————→ Speaking	
Visual language	Viewing ←————→ Presenting	
Written language	Reading	Writing

*Receptive and expressive aspects of the PYP language strands*

### 3.2 アクションプランに示される言語教育

本校における言語習得には色々な形があります。上記3つの言語学習スタイルの中で、教師はあらゆる評価ツールを使い、日本語、英語ともに、期待される到達点にひとりひとりの生徒が達しているかどうかを確認します。

教師は言語習得に関して個々の生徒の目標を設定しますが、その達成は生徒が意欲的に、探究心を持って取り組んだ成果でなくてはなりません。

以下に本校における生徒主体の探求に基づく言語習得の例を示します。

<p style="text-align: center;"><b>話す言語</b> (Oral language)</p> <p>→ 聞くこと、話すこと (listening and speaking)</p>	<p style="text-align: center;"><b>視覚的に理解する言語</b> (Visual language)</p> <p>→ 見ること、示すこと (viewing and presenting)</p>	<p style="text-align: center;"><b>書く言語</b> (Written language)</p> <p>→ 読むこと、書くこと (reading and writing)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 生徒が言葉や、ボディランゲージ、動きや、ジェスチャーなどを使って自分の考えを表現する</li> <li>◇ 絵や本などを使って、自分が理解したことを発表する</li> <li>◇ 質問をしたり、自分の思いや感情を仲間と共有したりする中で、キーコンセプトに気づく</li> <li>◇ 話すことによって他の人とつながりを持てるようになる</li> <li>◇ 言葉やジェスチャーなどを交えて自分のストーリーを発表することが出来る</li> <li>◇ 母語を使って自分が必要としているものを伝えたり、考えを説明したり出来る</li> <li>◇ 第二言語を使って簡単な質問に答えたり、また自分で質問したり出来る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 写真、絵や記号をみながら意味に気づき理解することが出来る</li> <li>◇ 遊びの中で、目に入った情報に気づき、興味をもったり、それを楽しんだり、調べたりすることが出来る</li> <li>◇ 標識やシンボル、ロゴなどを認識し、それらの共通点や違いに気付いたりする</li> <li>◇ ボディランゲージを使ってコミュニケーションをとったり、自分の理解したことを伝えたり出来る</li> <li>◇ 色や形、記号や写真などを使って自分のプレゼンテーションを作成することが出来る</li> <li>◇ 本のイラストの意味を理解し、自分の好きな本を繰り返し読んだり、自分の好きなページを見つけたり出来る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 本の読み聞かせを楽しんだり、自分の好きな本を見つけ、絵や言葉を理解しながら楽しむことができる</li> <li>◇ 絵本で、文字と関連する絵に興味を持ち質問したりする</li> <li>◇ 話を聞いたり、読んで理解したことを自分の生活体験とつなげて考えたりできる。</li> <li>◇ 身近にある掲示物などを読んで意味を理解できる</li> <li>◇ 文字を書くことがコミュニケーションの手段であることに徐々に気づき、それを楽しむことが出来る。</li> <li>◇ 書き方や何を書くかなどが相手に意味を伝えることになることに気づく</li> <li>◇ 書くということはとても便利なことだと知る</li> </ul>



## 4. 参考文献

本ポリシーの作成にあたっては以下の学校の資料を参考にしています。

- Tsukuba International School
- K International School
- Tokyo International School

また一部を以下の文献から引用しています。

- ◇ Making the PYP Happen: A Curriculum Framework for International Primary Education. Cardiff: International Baccalaureate, Dec. 2009. PDF.
- ◇ Scottish Consultative Council on the Curriculum. Scottish Executive. *A Curriculum Framework for Children 3 to 5*. Dundee: SCCC, 1998. Print.
- ◇ IBO 2008 - Guidelines for Developing a School Language Policy